

買う人・食べる人が待っている

学校給食での有機農業で栽培したお米の提供

市民のみなさんからご要望の多い「学校給食」に、今年から有機農業で育てたお米を取り入れることになりました。これは、環境にやさしい農業を広げていくための大切な「消費の取り組み」の一つです。

学校給食という確かな「消費の場」があることで、生産者も安心して安定的生産に取り組むことができ、地域全体で持続可能な農業と環境保全を進めることができます。

また、給食を通じて子どもたちが有機のお米にふれることは、地球温暖化の抑制や土壌・水資源の保全、生物多様性の維持といった課題を身近に考える「食育」にも繋がります。



販売店での声



道の駅めぐみ白山
嵐 俊之 駅長

道の駅めぐみ白山は、国道8号沿いの白山市宮丸町に位置し、観光情報の発信拠点であると同時に、地元生産者が丹精込めて育てた野菜や果物、味噌・醤油などの発酵食品、地酒やお菓子、工芸品など多彩な商品を取りそろえる直売所です。館内のレストランでは、その新鮮な食材を使った料理も提供しており、県内外から多くのお客様にご利用いただいています。

お米についても地元産米を取り扱っており、特別栽培米は特に人気です。また、一時的に取り扱った有機農業で栽培したお米も完売し、消費者において有機農産物をはじめとした環境に配慮した商品のニーズが確実に高まっていることを実感しました。今後、有機農産物などが安定して入荷できるようになれば、ぜひ積極的に取り扱いたいと考えています。



売り場には色々なお米が並んでいます

GEO × ORGANIC

一緒に有機農業に取り組みませんか

未来のために いま選ぶ有機農業

白山市では、有機農業に取り組む生産者を応援しています。

この白山手取川ユネスコ世界ジオパークの地で

環境にやさしく、地域と未来をつなぐ

持続可能な農業へ、今こそ第一歩を

有機レシピの紹介

有機農業で栽培した米と白山グリーンピース団子

(1人前2個 205kcal)

材料(2人前)

温かいごはん	200g
グリーンピース	40g
てんさい糖	5g
水	5g
塩	少々

1. ポリ袋に水を入れくつつきを減らす。グリーンピースを塩ゆでしておく。

金城大学人間社会科学部子ども教育保育学科(井上好美講師)の皆さんが考案してくれました

2. ごはん、てんさい糖を入れつつしながら固める。
3. 4個に分けて丸める。
4. グリーンピースをつぶさないようにまぜあわせて丸めて出来上がり。



写真左より
浅野さん、池田さん、
井上さん、谷口さん、元屋さん、

白山市産のグリーンピースは白山市農林水産物ブランドに認定されています。ぜひ組み合わせてご利用ください。

このほか沢山のレシピを考案してくれました。随時白山市ホームページで掲載していきます。



なぜ今、有機農業？

市長からのメッセージ

ジオパークの大地から未来へ 白山市のオーガニックビレッジ宣言

白山市長 田村 敏和



白山市は、白山から手取川の河口に至るまで、海拔0mから2,700mに広がる起伏に富んだ地形を持ち、そこには長い年月をかけて形づくられた大地の営みと、人々の暮らしの歴史が息づいています。豊かな自然と文化の宝庫として高く評価され、2023年には白山手取川ユネスコ世界ジオパークに認定されました。もちろん、先人たちが工夫と努力を重ねて築き上げてきた 県下最大の農地面積を誇る本市の農業もまた、このジオパークの大切な一部を担っています。

しかし近年、地球温暖化や気候変動などにより、異常気象や災害の頻発、気温の上昇は、私たちの暮らしや地域社会全体に不安をもたらし、未来に対する大きな課題となっています。こうした状況のなかで、本市はゼロカーボンシティを目指し、また SDGs未来都市に選定されるなど、環境保全と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めてきました。その流れの中で、国の「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業を推進することは未来を拓く有効な手段のひとつに位置づけられています。

すでに本市では、JAや一部の生産者が有機農業に携わっており、また市内全ての小中学校の給食において有機農業で育てたお米を提供する取り組みも始まりました。子どもたちが日常の中で「有機農業」に触れることは、環境と食の大切さを学ぶ食育にもつながっています。

さらに、県と策定した「石川県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画」に基づき、令和6年度には県内で初めて「特定区域（環境にやさしい農業に地域ぐるみで取り組むモデル地区）」に設定されました。こうした動きは、市民・行政・生産者が一体となった有機農業推進の大きな一歩となっています。

そこで、これらの実績と機運を背景に、白山市は令和7年度、生産から消費まで地域ぐるみで有機農業に取り組む「オーガニックビレッジ宣言」をいたします。また宣言とあわせて策定される「白山市有機農業実施計画」に基づき、生産者支援、学校給食への提供拡大などの消費の広がり、さらには市民一人ひとりが環境に配慮した食を選びやすい環境づくりなど、幅広い取り組みを実行していきます。

それは、豊かな自然と文化の遺産を未来の世代に引き継いでいくための、大切な一歩だと考えます。



国のみどりの食料システム戦略

私たちの食や農業・漁業のまわりでは、いま大きな変化が起きています。自然災害や地球温暖化の影響、生産者の減少や地域のつながりの弱まり、そしてコロナをきっかけとした暮らしや食べ方の変化。こうした課題にしっかり向き合いながら、未来に向けて食料を安定して届けていくことが重要になっています。

一方で、健康的な食生活や環境にやさしい取り組みが広がり、世界でも環境や健康を重視する流れが加速しています。これからの食や農業は、こうした国内外の動きに合わせて、持続可能な形に変えていく必要があります。

そこで国では、令和3年度に「みどりの食料システム戦略」を作りました。この戦略は、食や農業・漁業の生産力を高めながら、自然環境を守り続けることを目指すものです。そのために、新しい技術や工夫（イノベーション）を取り入れ、次の世代につながる食のしゅみを育てていきます。

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す姿として、農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現、化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減、化学肥料の使用量を30%低減、耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大する事などとしています。

農林水産省みどりの食料システム戦略
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>



有機農業の必要性とデメリット

有機農業ってなに？

有機農業とは、化学肥料や化学農薬を使わず、遺伝子組換え技術も使わない方法で行う農業のことです。自然の力を活かし、できるだけ環境への負担を減らしながら作物を育てていきます。

なぜ大切なの？

化学肥料や化学農薬に頼らないことで、地球温暖化の防止や土の力の維持、生きものの多様性を守ることに繋がります。つまり、有機農業は「未来の環境を守る農業」なのです。

広がる有機の流れ

環境に配慮したいという消費者が増えているため、国内の有機食品市場は年々広がっています。

でも課題もあります

有機農業は収量が少なくなったり、雑草対策や栽培に手間とコストがかかることもあります。だからこそ、地域や消費者みんなで支えていくことが大切です。

農林水産省ホームページ
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/index.html>



はじめてみよう有機農業

まずは 化学肥料や化学農薬に頼らない農業から

有機JASは、化学農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然の力を生かして作られた食品について、農林水産大臣が定める国家規格です。登録認証機関が生産の内容を検査し、基準に適合した事業者だけが「有機JASマーク」を付けることができます。有機JASマークがない農産物や加工食品に「有機」「オーガニック」と表示することは、法律で禁止されています。

有機JASの認証を取得すれば付加価値がつき、販売店でも取り扱ってもらいやすくなるという利点がある一方で、基準の遵守、検査手続きの煩雑さや費用面において取り組みにくいという点もあります。

白山市内には、有機JAS認証を持たなくても、実際に化学肥料や化学農薬に頼らず栽培を続けている生産者が数多くいます。まずは認証にこだわらず、環境に配慮した農業の第一歩として、化学肥料や化学農薬に頼らない栽培を実践することから始めてみませんか。



有機JAS認証制度の詳細情報は
農林水産省ホームページ
https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/youki.html#seido



石川県ホームページ
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousei/brand/eco/eco_butunintei/top.html



有機農業を支える栽培技術

JA白山では積極的に有機栽培に取り組み、水稲栽培のマニュアルを作成しており、生産者が参考にできる実践的な手引きとして活用されています。

また、農林水産省のホームページでは全国の先進的な技術が紹介されており、水田除草機やアイガモロボットなど、有機栽培にとって最大の課題である「雑草対策」であったり、ドローンなどをはじめとした「スマート農業」の導入による省力化など様々な技術開発が進んでいます。

農林水産省 有機農業関連技術情報
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/organic.html>



白山市としても、これから有機農業に新たに挑戦する生産者が安心して取り組めるよう、すで実践している生産者との情報交換や、栽培指導・技術研修会の開催などを検討しています。技術面での支援を重ね、地域全体で有機農業の輪を広げていきます。

実践経験者の声

農事組合法人 井ログリーンワークス
代表理事 北村 真一さん



Q1:化学農薬や化学肥料を使用しない(有機農法)で稲作に取り組んだきっかけは？

A1:それまでも農業新聞やSNSでも見えていて、世の中でも普及してきていると思いました。我々にもできるのかな？と。ちょうど白山市が学校給食で有機栽培の米を提供するという取り組みも始まりそうということで、連携できるのではないかと考えました。2023年に1枚(30アール)だけやってみました。除草機を2回し、そこそこ出来ました。やってみるまではもっと大変かと思っていました。

Q2:取り組んだ感想は？

A2:これまで(慣行)に比べて収量は少し減ったけれど、付加価値もあり完売しました。

Q3:課題はありますか？

A3:やはり、草との付き合い方ですね。たまたま農協から除草機を借りられたのも良かったです。今年(2025年)は1ヘクタールに広げました。かぐらもち(もち米)もやってみています。

Q4:今後については？

A4:高齢化や人手不足はありますが、今後も継続していきたいと思っています。

Q5:どのようにすれば取り組もうと思う生産者さんが増えると思いますか？

A5:技術支援や取り組みやすい補助体制を整えることで、取り組む方も増えるのではないかと思います。

国の支援制度

生産者が有機農業を行う際に、国において様々な補助制度があります。

●環境保全型農業直接支払交付金

化学肥料・化学農薬を原則5割以上低減する取り組みと合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援

●新たに有機農業への転換等をはかる農業者への支援

有機農業を新たに始める方を対象に、有機種苗の購入や土づくり、病害虫が発生しにくいほ場環境の整備といった有機農業の生産を開始するにあたり必要な経費を支援

詳しくは農林水産省ホームページ、
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/>
または白山市農業振興課 (TEL076-274-9540)

